

2 手焙形土器の線刻について

納所遺跡出土の手焙形土器（第34図187）に施された線刻は、かねてより注目されてきた資料である。本報告では紙幅の関係上、詳細な報告ができなかったため、ここで取り上げておきたい。

（１）線刻と施された土器について

手焙形土器に施された線刻をどのようなものと考えているのかについては、かねてより検討がなされてきた¹⁾。直弧文との関係が指摘されたほか、龍とみる見解なども出されているが、近年では北島大輔や石黒立人による単位文様という視点からの詳細な検討によって、伊勢湾沿岸地域における人面文との関係性が明らかにされてきている²⁾。それによれば、この納所遺跡の手焙形土器の線刻は、人面文の一部を表現したものである可能性が高いとされる。

次項に線刻の展開図を掲載したが（第131図1）³⁾、旋回するような配置でバチ形の単位文様が4単位描かれており、人面文の一部と考える場合、これが伊勢湾沿岸地域でみられる人面文線刻の左頬付近に描かれる幾何学文とみる。そして、バチ形文様群から左上へのびる文様が左目表現であるとみるのである。こうした見解は妥当なものであろう。

顔面の右側部分が描かれなかった理由としては、もともと部分描画であったと考える考え方と、未完成とする考え方とがある。人面文線刻において重要な要素とされる幾何学文を描いていることや、他の遺跡からも部分描画の資料が出土していることを踏まえれば、部分描画であると考えて問題ないように思われる。ただし、描かれた位置から見て手焙形土器の覆部を顔全体に見なしているような点と、部分描画の資料がまだ少ない点を踏まえると、途中で描画が中断し、未完成に終わったとの見方も完全には否定できないだろう。

一方、文様が描かれた土器については、形態から在地産であるか、搬入品であるか、速断できない。時期的には、形態や同じくSR4-2から出土した土器群からみて、廻間Ⅰ式期でも後半のものである可能性が高い。なお、線刻はかなり強い線で刻まれており、土器の器壁がまだ軟らかい段階で線刻が施

されたものと思われる。

（２）伊勢湾西岸地域の人面文線刻との関連

人面文線刻の施された土器が多く分布する伊勢湾沿岸地域にあって、伊勢湾西岸地域では人面文線刻土器が希薄であることが指摘されてきた⁴⁾。伊勢湾西岸地域の土器に施された人面文線刻は、他に鈴鹿市十宮古里遺跡例⁵⁾、松阪市琵琶垣内遺跡例⁶⁾のほか、可能性のあるものとして松阪市小津遺跡例⁷⁾があげられるに過ぎない。

十宮古里遺跡の人面文は、土器片に両目などが遺存している。顔の輪郭全体を描く西日本系のものである可能性も指摘されている。描かれた土器は小片のため器形などは不明で、所属時期や、在地で生産された土器かどうかなどは判断しがたい。ただし、この遺跡は廻間Ⅰ式期に盛期があり、人面文もこの時期のものと思われる。

琵琶垣内遺跡の人面文は、左目付近と顔面右側のごく一部が遺存している。線刻は納所遺跡のものほど強く刻まれておらず、刻線というよりは浅い沈線状の線で描かれている。再実測した展開図を掲載したが（第131図2）、左目付近に鯨面を表す多条の沈線が施され、また、眉間から眉にあたる部分にかけても沈線が施されている。岐阜県荒尾南遺跡・今宿遺跡例など、西濃地域の事例と類似する。ただし、顔面の右側部分については左側とはやや異なったラインが描かれており、左右対称に描かれていない可能性がある。

描かれた土器は小型の広口壺である（第131図）。器形や各部の文様、胎土などからみると伊勢湾西岸地域で製作された土器とみて問題ないと思われるが、同様の壺は伊勢湾沿岸地域に広く分布しており、製作地を限定することは難しい。時期的には廻間Ⅰ式期のものと考えられる。

さて、以上のような事例に納所遺跡の事例を加えると、人面文線刻土器が少ないとされる伊勢湾西岸地域においても、徐々に事例が増えつつあるようにみえる。時期的にも伊勢湾沿岸地域の他地域の事例と同様に、弥生時代終末期、なかでも廻間Ⅰ式期に

集中する可能性が高い。

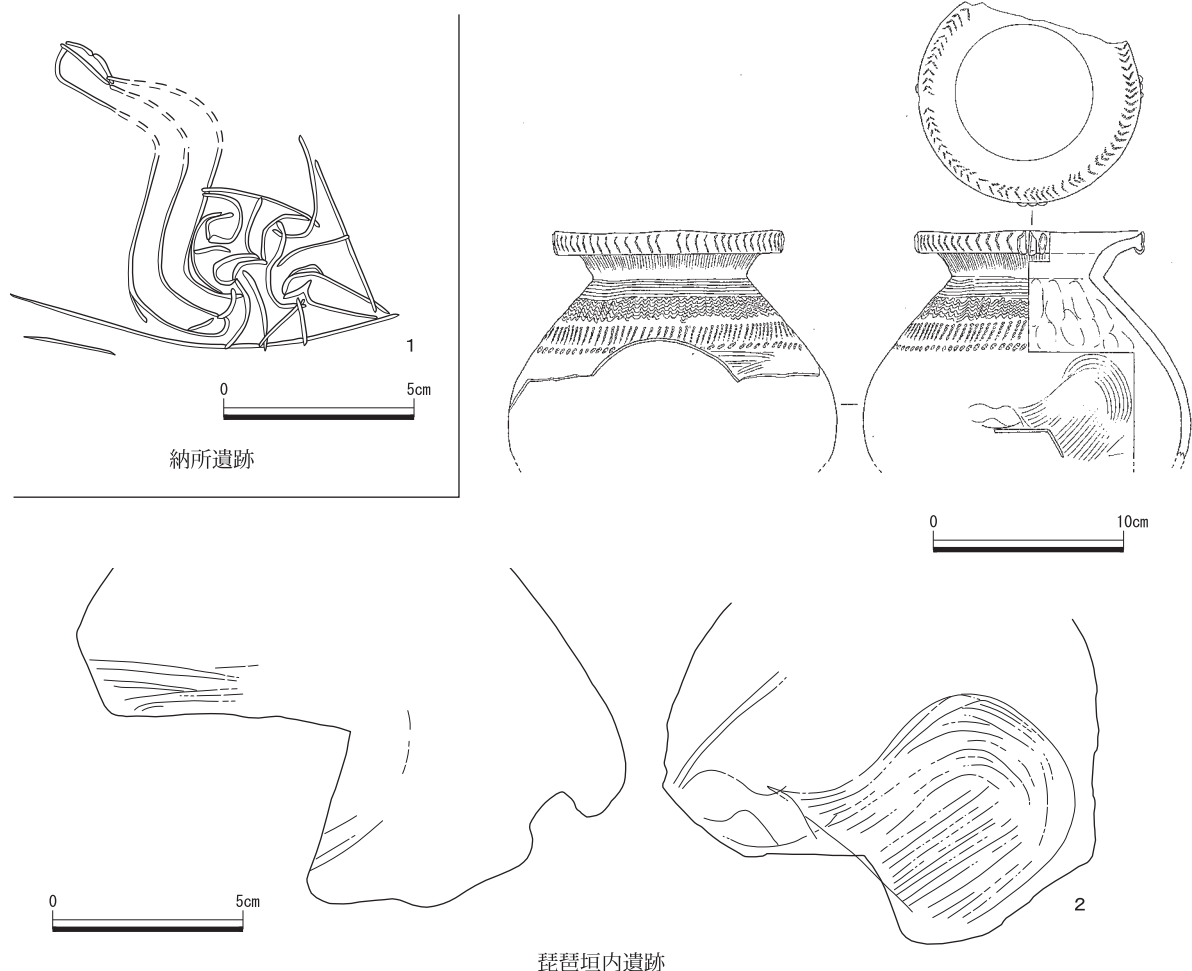
ただし、伊勢湾西岸地域の人面文線刻には様式的なまとまりがないようにも思われる。納所遺跡のものが人面の一部のみを描いた部分描画の可能性が高いのに対して、十宮古里遺跡と琵琶垣内遺跡のものは人面全体を描いた全体描画である。そして、全体描画のものの中でも、十宮古里遺跡のものと琵琶垣内遺跡のものでは系統的な差がある可能性も残る。したがって、伊勢湾西岸地域で人面文の線刻が体系的に行われていた形跡は、今のところまだ薄いといえようか。今後の資料の増加を待って更に検討していく必要があろう。

註

- 1) 伊藤久嗣「納所遺跡出土の特殊文様を描く手焙型土器」『考古学雑誌』第67巻第1号 日本考古學會

1981。

- 2) 北島大輔「組帯文の展開と地域間交流—古墳出現期の伊勢湾地方を中心に—」『駿台史学』第120号 駿台史学会 2004、石黒立人「伊勢湾周辺地域の人（鰐）面線刻をめぐる二、三の問題」『原始絵画の研究 論考編』六一書房 2006。
- 3) 註2) 石黒2006に掲載されている図を元に作成したものである。
- 4) 註2) 石黒2006。
- 5) 鈴鹿市考古博物館『十宮古里遺跡発掘調査報告』2010。
- 6) 三重県埋蔵文化財センター2007『琵琶垣内遺跡（第4次）発掘調査報告』2007。
- 7) 松阪市教育委員会『2005年度松阪市埋蔵文化財発掘調査報告』2007。



第131図 手焙形土器の線刻と関連資料